

丹沢：三ノ塔(夜間歩行訓練) & 懸垂岩

◆日程 2017年11月23日(木)～11月24日(金)

◆メンバー L：岡村、佐藤 s、前田、

「夕方4時には行動を終わらせる」よく聞くフレーズだがつい聞き流しそうなる。なぜそうなのかを経験しようと、この風変わりな山行計画を組んだ。それは、日没後に行動を開始し、三ノ塔の避難小屋(休憩所)まで行って泊まるというものだ。夜歩くといってもせいぜい2時間だ。歩荷訓練も兼ねる意気込みで日頃は買えないような食材(豆腐とか)、嗜好品(酒)を問答無用で買い込む。水もフルに担ぐことにした。

11月23日(木)祝日



前田さんの車で新茅荘付近広場まで行く。小雨だが、天気図から好転が予想された。先頭を歩かせてもらった。か細いライトの光で、首を振って左右をまんべんなく見るようにして、トレースを辿る。しかし、ザックの重さが刺激的だ。徐々に下ばかり見るようになった。つづら折りで曲がらずに直進し、佐藤さんに「岡村さん、こっち」と言われて気づく。

先頭を前田さんに代わってもらう。木に巻いてある蛍光ピンクのテープ、境界杭、ロープ等の人工物はライトに反射して目に入る。つつい引き寄せられてしまう。しかし、必ずしもそれらが正解ではない。地形が見えなければ、地図との照合も困難だ。樹林帯の中はルート外でも歩けないこともないので、なお難しい。ただ、感触として、ルートをはずれると小枝や落ち葉が異様に多くなり、何となくわかる。「なんかちよっと変だ」と言って数歩戻ることもあった。違和感があったら、戻ることは大事だ。立ち止まってみんなで見回すのは楽しい。

つづら折りの後は顕著な尾根線をぐいぐいと登っていく。地図もそうだ。途中から、あまりに傾斜が急で、小枝や落ち葉が多く、違和感があった(後述の915m地点)。しかし、尾根線を外してはいないし、他に道はないので、そのまま進み、烏尾山に到着した。

烏尾山荘は閉まっている。下界は光が満ちあふれ、すばらしい夜景だ。信号機の3色も見えた。夜景はうまく写真に撮れない。この時間、この場所で見るとしか。雨は上がり、星も月も見えた。少し下って岩稜帯を登り返すと三ノ塔に着いた。三ノ塔からは海側(真鶴～横浜)だけでなく、裏側(厚木、東京方面)も見えた。

避難小屋は貸し切りだった。避難小屋が休憩所とされるのは、おそらく下が土間になっていて床がないからだ。すきま風があつて寒かったが、おでん、春雨(すき焼き風)、モツ煮(後で、うどん追加)、ビール、熱燗(ワンカップごとおでんに入れた)、焼酎お湯割りで温まった。至福だ。壁際のベンチ状の狭いスペースだったが、問題なく寝られた。

CT：新茅荘付近 18:20－烏尾山 20:00－三ノ塔 20:40

11月24日(金)

翌朝、寒さが厳しかった。鼻が冷たい。中華粥を食べて出発。来た道に戻る。さまざまな発見があった。たとえば、通ったところで気づかなかったベンチを発見した。「こんなでかい物も気づかなかったか」と嘖然とした。また、われわれは尾根線を直登したが(915m地点)、ルートは右折し、そこからまたつづら折りになっていた。明るければすぐわかることだが、「暗かったらこれに気づかないのは、しょうがないよね」と話し合った。

新茅荘付近広場まで下山した。私はリーダーとして、「これから岩トレを行う」と宣言し、3匹は意気揚々と懸垂岩に向かった。

最後に今回の山行でわかったことを書いておくが、どれも当たり前のことばかりだ。①間違いなく夕方4時には行動を終わらせた方がいい、②もし4時を過ぎても行動できないことはない、③しかし、日没後、ルートファインディングはかなり難しい(道迷い等ですごくロスになるかも)、④迷ったら戻る、⑤本の知識だけでなく経験することが大事、⑥夜間より昼間の方が景色が見えて楽しいかも、⑦でも、山行計画に新しい経験ができるようなテーマを設定すると楽しい(!)、⑧それに、食材・酒類をたくさん持って仲間と山に行くのはすごく楽しい (!!)

例会山行でやってみるのも、いいんじゃないかと思う。でも、ニーズはあるのかな？

CT：三の塔 8:00－烏尾山 8:25－新茅荘付近 9:45、懸垂岩で岩トレ終了 14:00

(記：岡村)

